

WEEKLY SIGNAL

2020年5月22日（金） 1525号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想					
5/25（月）		5/26（火）	5/27（水）	5/28（木）	5/29（金）
無担保O/N		△ 0.087% ～ 0.001%			
銀行券		+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 100
財政他		+ 9,000	△ 3,000	△ 1,000	△ 2,800
資金需給		+ 10,000	△ 3,000	△ 1,000	△ 2,900
主な要因	国庫短期証券発行・償還（3M）		国債発行（40年）		
オペ期日	共通担保(全) CP等買入 社債等買入 補充供給	△ 8,500 △ 600 △ 100 + 100			
オペスタート	共通担保(全)	+ 4,000	社債等買入	+ 2,000	
（日本）		企業向けサービス価格指数前年比（4月）			東京CPI(5月) 完全失業率(4月) 有効求人倍率(4月) 鉱工業生産(4月) 小売売上高(4月)
（海外）		米 FHFA住宅価格指数(3月) 米 新築住宅販売件数(4月) 米 消費者信頼感指数(5月)	米 地区連銀報告（ページブック）	米 新規失業保険申請件数(23日終了週) 米 耐久財受注(4月) 米 GDP(1Q) 米 中古住宅販売成約指数(4月) ユーロ圏 景況感指数(5月) ユーロ圏 消費者信頼感指数(5月)	米 個人所得・支出(4月) 米 卸売在庫(4月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数(5月) ユーロ圏 CPI(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.060 ～ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ～ 0.040
SPOT 3M	0.000 ～ 0.070
SPOT 6M	0.000 ～ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は、週初417兆2,800億円から始まった。19日に国債発行等を主因に413兆円台まで減少したものの、その後は国庫短期証券・国債買入オペや財政等要因から同残高は増加し、422兆3,200億円で越週した。
無担保コールON物は、新積み期に入り、ビッドサイドが慎重な動きとなったことで、週を通して、軟調な地合となった。なお同金利は△0.062%～△0.059%で推移した。
ターム物は1W～1Mの期間で△0.070%～△0.050%の出合が散見された。
日銀は22日の臨時金融政策決定会合で、企業等の資金繰り支援のための措置として、新たな資金供給手段の内容を決定した。これまでのCP・社債等の買入れ、新型コロナウイルス感染症対応金融支援特別オペとあわせて「新型コロナ対応資金繰り支援特別プログラム（特別プログラム）」（総枠約75兆円）とし、期限を半年間延長して、2021年3月末までとした。
来週の主な予定は、国内では完全失業率（4月）、鉱工業生産（4月）の公表などがある。海外では27日に米地区連銀報告（ページブック）、28日に米GDP（1Q）の公表などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.01 ～ 0.00
TDB 3M	△0.150～ △0.100
現先 (on/1w)	△0.04 ～ 0.00

＜C P＞

今週の入札発行総額は約8,200億円で、週間償還額（約4,200億円）を上回った。発行市場は、5・10日発行とその他金融や石油業態の大型案件が重なり、活況となった。発行残高は、先週末の23兆4,025億円から21日時点では約23兆6,400億円と増加した模様。発行レートは、先週に引き続きディーラーが積極的に購入に動いたため、レート低下が進んだ。また、22日には臨時の金融政策決定会合が開催され、中小企業等の資金繰り支援のための「新たな資金供給手段」（資金供給の対象＜緊急経済対策における無利子・無担保融資を中心とする適格融資＞：約30兆円）が加わることとなった。日本銀行は、CP・社債等の買入れオペ（残高上限：約20兆円）、新型コロナウイルス感染症対応金融支援特別オペ（4月末現在：約25兆円）を合わせて総枠約75兆円とし、期限を半年間延長して、2021年3月末までとすることとした。
来週の週間償還額は、月末の大量償還（約7,000億円）を含め1兆500億円強となっている。発行市場は、月末スタートの大量発行が見込まれるため、発行増が見込まれる。発行レートは、弱含み横ばいでマイナス圏内の出合いを予想する。26日に、CP等買入オペが8,000億円で実施される予定となっている。

＜TDB＞

19日の1Y908回債（5/20償還）の入札は、最高落札利回り△0.1607%、平均落札利回り△0.1657%となり、入札後△0.18%～△0.198%のレンジで取引された。また22日の3M909回債（8/24償還）の入札は、最高落札利回り△0.1102%、平均落札利回り△0.1166%となり、入札後△0.119%～△0.12%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは3M907回債（8/17償還）が△0.13%～△0.135%のレンジで出合いが見られた。

＜レボ＞

足許GC取引は週初△0.14%近辺から始まり、週末には△0.11%～△0.10%の取引が中心となった。国庫短期証券の発行があった週末の25日受渡しでは△0.09%台から始まり、△0.06%台まで上昇した。SC取引は2年409～412回債、5年137～143回債、10年336～358回債、20年168～172回債、30年59～66回債、40年12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等々は作成時点のものではなく、今後予告なく変更されることがあります。